

2020年11月30日
株式会社毎日放送

各 位

**2020年度関西写真記者協会賞
「スポーツ部門」「企画部門」の2部門で金賞を受賞**

関西写真記者協会が優れたニュース映像や報道写真に贈られる関西写真記者協会賞で、MBSの作品が「スポーツ部門」「企画部門」の2部門で金賞を受賞しました。受賞作品の概要と、受賞者のコメントは下記の通りです。

記

●スポーツ部門 金賞

家族に捧ぐ「リングにかけるオヤジたち」 放送:News ミント! 2020年3月24日(火)

撮影:奥村恭介おくむらきょうすけ(所属:放送映画製作所)

本来ならば今年オリンピックイヤー、私は密かにスポーツに関わる作品を残したいと思っていました。そんな折、私が通うジムの会長から「出場資格は35歳以上。オヤジキックの大会に出場しないか?」と提案を受け、出場ではなく「取材」で大会に参加することに決めました。

「最近、自分の言うことを聞かなくなってきた反抗期の息子を見返したい」元プロキックボクサーの伊藤さん(46)。「病気がちな妻に勇気を与えたい」キックボクシング歴4か月の小田原さん(42)。同じオヤジでも、闘う理由は十人十色。彼らが必死に闘う姿はとても美しいものでした。皆さんにオヤジのカッコ良さが伝われば幸いです。

●企画部門 金賞

難病ALSを患う妻、支える夫の想い 放送:News ミント! 2020年8月4日(火)

撮影:鈴木滉正すずきひろまさ(所属:毎日放送映像取材部)

この企画ではALS(筋萎縮性側索硬化症)嘱託殺人をうけ、ALS患者と、その家族が置かれる現実について取材をしています。嘱託殺人事件以降、世間ではこの事件について様々な意見が交わされてきました。嘱託殺人について、私たちが意図的に賛否を形成しない様、米田夫妻のそのままの雰囲気映像化することにこだわって撮影をしています。妻・晴美さんのALSと向き合いながら、明るく生きるふたり。インタビューでは、夫の裕治さんが嘱託殺人への理解を示しながらも、そこに至らないようALS患者の存在価値を肯定することが大切だと話されていました。ALSという病で身体が利かなくなり、人の助けなしでは生きられなくなっても、「生きていい」「それでも生きてほしい」という周囲の言葉や想いがALS患者を長期的に支える柱になる。声にならない言葉が、晴美さんの表情から聞こえてくるようでした。この企画がALS嘱託殺人へのひとつの答えになれば幸いです。

以上

本件問い合わせ先:広報部